



# 岩船米づくり情報 No.1

平成30年2月  
岩船農業振興協議会  
村上農業普及指導センター  
岩船米改良協会

自慢の美味しい「岩船米」を全国へ届けましょう！

## 食味・品質とも最高級の岩船米生産を！

### ●岩船米コシヒカリの目標

食味第一！地区品質格差の解消・底上げを！

1等級比率95%以上、玄米タンパク5.5%~6.0%

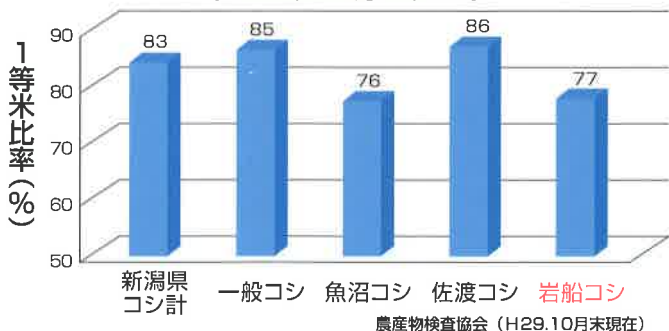


新潟の三大ブランドの一つである「岩船米」は、消費者・実需者からの期待が大きく毎年高いレベルでの食味と品質が求められています。

その期待に確実に応えていくために、「岩船米」生産においては、時期毎の栽培ポイントを的確にとらえて、最高級のお米を全国の消費者へ届けられるようにしていきます！

### 1 県産コシヒカリの区別1等級比率

H29年産コシヒカリの1等級比率 (%)  
(CE粉認定分を除く)



平成29年産岩船コシヒカリの1等級比率は、県内コシヒカリの平均より低い結果でした。

日本一を目指す「岩船米」は、より一層の食味・品質向上を図り、消費者の皆様から喜んで食べて頂ける美味しく品質の高い「岩船米」を生産しましょう！

### 2 岩船産コシヒカリの地区別1等級比率

H29年産コシヒカリ地区別1等級比率%  
(CE出荷米含む)



各地区とも目標  
95%をみんな  
で達成しよう!!

岩船産コシヒカリの地区別の1等級比率は、どの地区も目標の95%に至りませんでした。また、地区間差もあり、各地区全体で底上げしていくことが、「岩船米」に求められています。

# 平成29年産米の格落ち要因

平成29年産米の格落ち要因は、「除く青未熟粒」によるものが最も多く、格落ち全体の約6割を占めました。また、「青未熟粒」や「胴割粒」によるものが例年以上に目立ち、山間部では前年度より減ったものの「部分カメ粒」が多く発生しました。

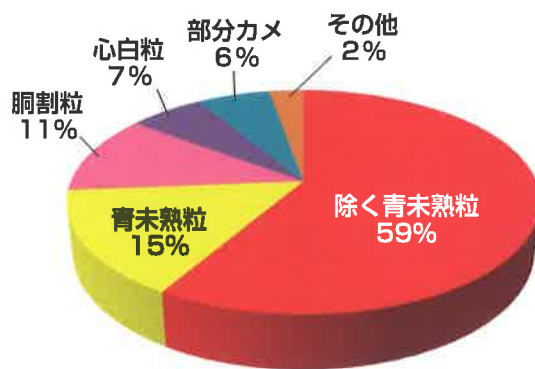
## ◆主な格落ちの発生要因別対策

「除く青未熟粒」については、登熟期の日照不足が影響していますが、栽培面では、土づくり不足、籾数過剰、早期落水など根の活力低下などによる後期栄養不足も大きな原因となっています。

また、刈取り段階で青籾が多かったことから、過乾燥をまねき「胴割粒」が増えました。

山間部では「部分カメ粒」による格落ちが多くなりました。

コシヒカリの格落ち要因



※比率は格落ち数量に占める割合（11月末日現在）

格落ち要因	主な発生地域	発生要因	発生防止対策
除く青未熟粒 (ヤセ米) 【59%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全域で主要因</li> <li>・特に荒川で発生割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登熟期の日照不足、強風</li> <li>・土づくり（地力）不足に伴う後期栄養不良</li> <li>・作土が浅く根量不足や根の活力不足</li> <li>・過剰な籾数（籾数に対して地力が伴っていない）</li> <li>・早期落水による登熟不足</li> <li>・穂肥量の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象変動にも対応できる土づくりの実施（土づくり肥料や堆肥施用、稲わら・もみ殻の秋すき込みなど）</li> <li>・作土深15cmの確保</li> <li>・基肥の適正化や田植え後1か月での中干し・溝切り（適正な籾数確保）</li> <li>・出穂後25日まで飽水管理</li> <li>・後期栄養の充実（適切な穂肥、一発基肥栽培でも葉色が淡い場合の追肥）</li> </ul>
青未熟粒 【15%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神林、村上で発生割合が高め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登熟期の日照不足、低温</li> <li>・出穂のバラツキ</li> <li>・籾数過剰</li> <li>・倒伏</li> <li>・早刈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期良質茎確保</li> <li>・健苗育成</li> <li>・適期中干し・溝切り</li> <li>・適正な穂肥対応で倒伏防止</li> <li>・適期刈り取り</li> </ul>
胴割粒 【11%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村上、山北、関川、で発生割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刈り遅れ</li> <li>・毎時乾減水分0.8%を超える乾燥</li> <li>・玄米水分14%を下回る過乾燥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適期収穫</li> <li>・収穫した籾の水分状況に応じた温度と乾燥速度の設定</li> <li>・乾燥時、手持ちの水分計を併用して仕上げ水分を確認</li> </ul>
心白粒 (乳白を含む) 【7%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村上、神林で発生割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登熟期の日照不足</li> <li>・籾数過剰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土づくりの実施や作土深15cmの確保</li> <li>・適期中干し・溝切り</li> </ul>
部分カメ (斑点米) 【6%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関川、朝日、山北の山間部で発生割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農道、畦畔等の雑草繁茂</li> <li>・薬剤防除の不徹底</li> <li>・水田内のヒエ、ホタルイにかスミカメムシ類が誘引</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農道、畦畔等の草刈りの徹底</li> <li>・粉剤・液剤による2回防除又は粒剤による1回防除の徹底</li> <li>・水田内の雑草の取りこぼしをなくす</li> </ul>

# 平成30年産米の食味・品質向上に向けた重点技術対策

## 1 根の活力向上

### 《目的》

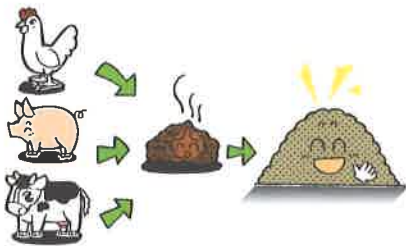
気象変動の中でも安定した登熟で、整粒歩合や収量の向上を図る。  
(除く青未熟の低減)

### (1) 土づくり及び深耕

- ・ 土壌診断結果(JA)に基づき、堆肥や土づくり肥料の積極的施用
- ・ 稲わら(もみ殻)の秋すき込みによる地力増進  
(※春すき込みは、ワキの発生を助長し、根に悪影響あり)
- ・ 作土層増加のための深耕(目標15cm)



チゼルプラウによる深耕



土づくりは、大変だけど  
安定した岩船米作りの源だね！



## 2 初期生育の促進と適正な生育量の確保

### 《目的》

早期に良質茎(下位分げつ)を確保し、食味・品質(整粒歩合)を高めやすい稲姿にする。

### (1) 健苗の育成(老化苗防止)

- ・ 加温の場合、20日苗、無加温の場合、25日苗(無加温)の移植
- ・ 移植前追肥による活着の促進(特に減減栽培では効果大)

### (2) 生育調節(中干し・溝切り)の適期実施

- ・ 田植え後1か月を目途に中干しを開始
- ・ 出穂期の1か月前までに中干しを終了
- ・ 溝切りは、効率的に水管理をするため全ほ場で実施

## 3 後期栄養の充実

### 《目的》

穂肥とその後の水管理で稲体の活力を良好にし、品質・収量を高める。

### (1) 生育診断に基づく的確な穂肥(追肥)対応

- ・ 分施の場合、生育診断を実施し、2回の穂肥を確実に施用
- ・ 基肥一発栽培で、出穂前の葉色が淡く、栄養凋落の懸念がある場合は、追肥を実施

### (2) 登熟向上のための水管理

- ・ 登熟期は飽水管理を実施
- ・ 落水は、出穂後25日以降

## 4 適期刈取り・乾燥・調製

### 《目的》

食味・品質の良い岩船米に仕上げる。



### (1) 刈り遅れ防止

・出穂期の把握と積算気温によるめやすの活用

熟期	通常年	高温年
早生	975℃	925℃
中生	1000℃	950℃
晩生	1000~1050℃ (品種差あり)	

・黄化籾割合が85~90%が収穫適期

### (2) 食味・品質を低下させない乾燥・調製

- ・収穫した籾の水分状況に応じた温度（初期水分28%で40℃以下）と乾燥速度（毎時乾減水分0.8%以下）の設定
- ・手持ちの水分計を併用して仕上げ水分を確認し、胴割粒の発生や過乾燥を防止
- ・丁寧な調製で未熟粒や被害粒を確実に除去
- ・斑点米除去など色彩選別機の活用

## 5 斑点米の発生防止

### 《目的》

草刈り（すみかを無くす）と薬剤防除の両輪で斑点米の発生防止

### (1) カメムシ類防除の徹底

- ・出穂前の草刈りの徹底・粉剤・液剤による2回防除又は粒剤による1回防除の徹底
- ・水田内のヒエ、ホタルイの取りこぼしをなくす。



## 【品質向上のキーポイント】 なんとと言っても「土づくり」!!

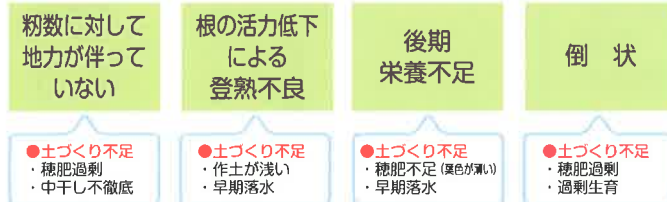
### H29除く青未熟粒の発生要因

「除く青未熟粒」の発生には、様々な要因がありますが、気象以外ではどれも土づくり不足に起因しています。

【気象的には…】

登熟期間の日照不足

【稲体的には…】



除く青未熟粒の発生・格落ち

「除く青未熟粒」解消には、まずは「土づくり」です!



JAには、土壌診断結果に基づいた「土づくりマップ」があります。

皆さんのほ場に適した効果的な「土づくり」を進めるため、まずはJAや普及指導センターに御相談をお願いします!!

地域一丸となった取り組みで、全量1等米を目指しましょう!

～お問い合わせは、お近くのJAや普及指導センターへ～